



| | |
|------------|---|
| Title | 日米関係（沖縄返還）28(追加資料要請 外務省外交史料館レファレンス番号：nd) |
| Author(s) | - |
| Citation | 平成26年度外交記録公開(2) 公開日：平成27年1月15日 外務省外交史料館管理番号：2014-4128 CD・DVD番号：H26-004 |
| Issue Date | |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/43808 |
| Rights | 外務省外交史料館所蔵資料 |

追加資料要請

極 秘

無 期 限

部 の 内
号

度末

アメリカ局長

参 事 官

安全保障課長

北米第一課長

沖縄軍務者の給与関係資料について

45. 12. 18
北米第一課

1. 12月11日在京米大使館シミツ書記官より
北米1課(加藤)に送付越した別添1.のメモランダム

を防衛施設庁事務企画課小林補佐に送付し
検討を要請しおいたこと。本18日同課大貫

智良は加藤を来訪し、12月16日付別添2.の英
文メモを提出越し、同メモ記載の資料(時向

当りの給与平均)につき、米側より11月5日及び12月2日
提示された給与平均の相違の理由、米大りの

メモランダムに添付された等級別従軍者の
分布表の他に、号俸別従軍者の分布表(要末等)

を米側より入手を要請があった。

2. 施設庁の事務関係で二次調査用の派

遣については、日米双方で原則的に合意地
といこと。因るの案件追加資料要求につ

いては、前記調査用の派遣時に入手おこ
しは^Vりかか_てと存せられる。

別添2

DFAA Memo
16 December 1970

Re: Supplemental Information on Separation Allowance for Ryukyuan Employees

1. References are BASIC HOURLY PAY RATE DISTRIBUTED BY FUND AND SEX and LOCAL NATIONAL DISTRIBUTION BY LENGTH OF SERVICE, which are furnished by Colonel Jacobsen, Chief JSIC in Okinawa, to GOJ on 2 December 1970.

2. Your specific cooperation is solicited in obtaining supplemental information on the references for the following points:

- a. As of what date's status do these referenced data indicate?
- b. According to the data furnished by Colonel Jacobsen on 5 November 1970, average hourly wage of Ryukyuan employees are indicated as follows:

| | | |
|-----------------------------|-----------|------|
| Appropriated Fund | August 69 | \$79 |
| | July 70 | \$88 |
| Non-Appropriated Fund | August 69 | \$80 |
| | July 70 | \$89 |

However, the data referenced 1 above indicate the following amounts in weighted average which are different from the above.

| | |
|-----------------------------|--------|
| Appropriated Fund | \$81.5 |
| Non-Appropriated Fund | \$78.5 |
| Overall | \$80.7 |

So how have the former figures (furnished on 5 November 1970) been obtained?

- c. So as to compute Ryukyuan separation allowance accrual more accurately, your further cooperation and assistance are requested in making available for us data indicating distribution of scheduled work hour week by fund. If not available at the US Forces in Okinawa, overall average of scheduled work hour week would be helpful.

3. The furnished data of 8 December 1970 indicate distribution of Ryukyuan incumbents by grade of each Pay Schedule. So as to produce more accurate result in estimation of anticipated cost, such data as indicating distribution of incumbents (both Appropriated Fund and Non-Appropriated Fund) by each step of grade under each Pay Schedule will be highly appreciative. A form of the needed data is illustrated as shown in the attached sheet. Breakdown by Commands is not necessary if such indication causes much inconveniences in preparing data.

EXAMPLE:

RYUKYUAN GENERAL SCHEDULE (RGS)

| | STEP -- | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | TOTAL |
|--------------|---------|------|------|-----|------|------|------|-----|------|-----|------|------|------|-------|-------|------|-------|
| GRADE | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | | 20 | 32 | 18 | 26 | 39 | 37 | 24 | 43 | 18 | 113 | 147 | 235 | 284 | 163 | 69 | 1,268 |
| 3 | | (30) | (16) | (4) | (13) | (18) | (16) | (8) | (20) | (9) | (62) | (73) | (76) | (188) | (117) | (30) | (680) |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | | | | | | | | | | | | | | | | | |

NOTE: a. The figures used above are hypothetical ones for illustration purpose.

b. The number of incumbents at Non-Appropriated Fund Activities will be mentioned in parenthesis.

R. Kato

極 秘
無 期 限
10 部の内
10 号

秘

日米交渉要旨
(沖縄・軍労働問題)

労務企画課
45. 12. 22

| 項 目 | 米 側 主 張 | 日 本 側 主 張 | 備 考 |
|------|--|---|-----|
| 基本方針 | <p>1. 復帰の際本土に適用されているMLC BU" IHAは、 そのまゝ、沖縄にも適用されるべきこと。 (1970. 7. 30. 付トキング"ペーパー 1.)</p> <p>2. 復帰前において、沖縄のペイ、レベルを漸次 本土並の方向に移行すること。 (1970. 7. 30. 付トキング"ペーパー 2.)</p> <p>3. 次の3事項が、復帰前に日米両国の満足の ゆく解決に至る明白な目途を得ない場合 は、本土とは異なる労務管理制度を沖縄に 考慮せざるを得ないこと。 (1970. 7. 30. 付トキング"ペーパー 3.)</p> <p>① 米側負担労務管理費の削減。 ② 駐留軍要員健康保険組合の管理運営の 改善。 ③ 定率方式諸手当の或るもの定額方式 への変更。</p> | <p>1. 復帰と同時に本土並適用を実施する こと。 2. 地位協定並びにこれに関連する諸取決め は復帰の際そのまゝ沖縄にも適用されるべきこと。</p> | |

秘

| | | | |
|-------|---|----------------------|---|
| | 4. MLCBのIHAの本工並適用によって惹起される 唯一の主要交渉問題は、復帰の際の 退職金の調整或は取扱であること。 (1970.7.30.付トキング・ペーパー 6) | | |
| 労務管理費 | 1. 未側負担労務管理費が削減されなければ、 沖縄軍労働者を日本側の管理下に置くこと は困難である。 (1970.7.30付トキング・ペーパー (A)) | | 1. 本工における管理費の現状を 説明した。(1970.9.1.会議) 2. 沖縄における管理費の負担 に關する資料を未側は提出する こと。(1970.9.1.会議) (1970.12.1.会議) |
| | 2. 丁. 沖縄の返還に關連した経費は一切未側の 負担としない。 イ. 前記原則に基づき、防衛施設庁が、沖縄に 行政事務を敷きその業務を遂行するための一切 の経費は未側は負担しない。 (1970.11.27.付トキング・ペーパー 38) | 地位協定第24条(賦務条項)に抵触する。 | (由) 1970.12.7付資料提出 1970.11.27トキング・ペーパー 3Cに關する未側具体案の考 慮が及ぶならば、38 は撤回する。 (1970.12.1.グリーン特別補佐官費用) |
| | 3. 未側負担労務管理費と軍従業員数との間に 合理的な関連性を設定する。 (防衛施設庁の機構及び定員には介入しない 方式) (1970.11.27.付トキング・ペーパー 3C) | | 未側負担管理費策定方 式案を未側を準備する。 (1970.9.2.議事録) (注) 1970.12.1.グリーン特別 補佐官から提案する。 |

| | | | |
|------------------------|--|--|--|
| | <p>4. 管理員選定手続を簡素化し、事前協議方式として1972 日本会計年度から実施する。 (1970.11.27付トーキング・ペーパー 34)</p> | | |
| | <p>5. 米側が負担すべき管理員の対象となる 管理員職員数は、MLC、BL、MC 従業員数に 対する一定割合によって決定されるべきであり、 従業員数110人に対し、管理職員数1名の 割合とすべきであると基本的には考えるが、 端数を切り捨て100対1の割合をもとに決定 すべきである。</p> | | |
| | <p>1. 米側負担管理員の算定方式 $\frac{\text{従業員数} \times \frac{1}{100}}{(\text{本側} \text{管理職員数})} \times \left(\frac{\text{管理職員数}}{\text{対総人員数}} \right) \left(\begin{array}{l} \text{業務管理のための} \\ \text{人員件数以外} \\ \text{の経費} \end{array} \right)$ </p> | | |
| <p>駐留軍員健康 保険組合</p> | <p>1. 駐健保組合は、職員或は所要経費を比例的 に増加することなく沖繩に肉の追加業務を行う 能力があるかどうか検討したい。 (1970.7.30付トーキング・ペーパー (B))</p> | <p>1. 医療施設、医療給付等 沖繩と本土との格差 が大きい事実、厚生省の方針未決定の事実を指 すとともに、本土駐健保組合の保険料率 改定につき目下在日米軍と防衛施設庁間で 交渉中であることを指摘した。 (1970.9.1. 会議)</p> <p>2. 沖繩の水準が本土並に達する迄の間、暫定的 に沖繩独自の駐健保組合を設定を案を示唆した。 (1970.9.1. 会議)</p> | <p>1. 本土における保険料率 改定については従来通り 交渉を進めることになった。 (1970.9.2. 議事録)</p> <p>2. 沖繩における駐健保 組合の在り方について、</p> |

| | | | |
|---------|--|--|--|
| | | | 防衛施設法で具体案検討の 上労務委員会に討議 する。(1970.9.2. 議事録) |
| | 2. 医師、医療施設、保険料負担額等本土と沖縄 間の格差が大きいので、沖縄独自の健保組合を 設立する。(1970.11.30. グリーン特別補佐官説明) | | |
| 特別作業手当 | 1. 従業員の利益を害うことなく定額化する。 (1970.7.30. トーキングペーパー C) (1970.9.1. グリーン特別補佐官説明) | 1. 在日米軍と防衛施設庁間の持作手当折衝経緯 を説明した。 2. オフセット・バリエーションに関する日本側の反対提案 を米側が考慮するならば、米側提案を前向き に考慮する。(1970.9.1. 会議) | 防衛施設庁と在日米軍間で 双方満足のゆく解決を得る よう引き続き交渉する。 (1970.9.2. 議事録) |
| 退 職 手 当 | 1. 返還の際米側が支払うべき退職金を、返還後 も引き続き勤務する従業員に対しては、米側 が実際に返還する日に支給することとする。 (1970.9.1. グリーン特別補佐官説明) | 1. 米側の考案については理解するが、退職金 支給留保期間中の利息相当額を加算す べきこと、及び人員整理退職手当割増額 の算定に当たっては、返還前の勤務期間を 通算すべきこと、並びに退職金支給留保 については、在日米軍と従業員との間で 復帰前に所要の措置をとるべきことを 指達した。(1970.9.1. 会議) | 1. 復帰前及び復帰後に 受ける退職金の取扱方 式に関する検討を労務 小委員会において行う こととするよう留意した。 (1970.9.2. 議事録) 2. 左の日本側の考案の方 詳細につきブルー・フック を行った。 (1970.11.5. 労務小委員会) |

| | | | |
|--|--|--|--|
| | <p>2. ア) 復帰前の勤務に至る返戻金については 非視方式で計算した額を、米側は債務として 認める。</p> | <p>2. 返還なかりせば、全勤務時間に戻り、非視 方式^とより米側が負担すべき額を指適。米側の 主張が結果的に云って、返還と奇貨として 米側負担分の軽減を図ったこととなる旨 指適した。(1970.12.1. 会議)</p> | |
| | <p>1) 復帰後については、日本^{方式}本土で計算した額を 米側は債務として認める。</p> | | |
| | <p>ウ) 復帰前後における勤務継続の実態^を に着目し、復帰前における勤務開始時 より、日本本土方式を適用するとすれば 前記ア、及びイ、との差額は、日本側の 負担とする。</p> | <p>左の差額を日本側が全額負担する 必然性はない。(1970.11.30. 会議) 本土における従業員の陸軍から空軍への 転任の場合における取扱例を指適した。 (1970.11.30. 会議)</p> | <p>返戻金試算のための基 礎資料を米側は提 供する。(1970.11.30. 会議) (注) 1970.12.8付資料 米側から提供あり。</p> |
| | <p>エ) 復帰前の返戻金は、その額を固定して、 実際の支払は当該軍労働者が復帰後に おいて実際に離職する時まで延期すること とする。(1970.11.27. トーキョーレポート 2) (1970.11.30. グリーン特別補佐官説明)</p> | <p>当該延期期間の利息相当額は、米側が 負担すべきである。 (1970.11.30. 会議)</p> | |
| | <p>オ) 返戻手当の取扱い、返還前の勤務と 返還後の勤務を分離し得るとの原則 日本側は を労務小委員会において認めている。</p> | <p>日本側としては、該労務小委員会におい ては、考え得る技術的方法論につ いて例を挙げたに留まることがあって、 米側の考え方を容認したものでない 旨指適した。 (1970.11.30. 会議)</p> | |